



容器包装プラスチックの資源化ごみの扱いを求めています

実現すれば、市民の分別の手間が増える。しかし、有料ゴミ袋の必要枚数が減る。どう思いますか？

容器包装リサイクル法って？

容器包装リサイクル法とは、家庭からでるごみの6割を占める容器を資源として回収することにより、ごみの減量化を図るための法律です。

これは、プラマークのある容器包装プラスチックをリサイクルするというもので、20政令市中14市で実施されていますが、実施については各自治体の判断に任せられています。

岡山市やらない理由

9月議会市民ネット代表質問で、なぜ岡山市ではごみゼロ社会、資源循環型社会をめざしながら分別に取り組みないのか、矛盾ではないのか質問しました。甲斐充環境局長は、容器包装プラスチックは、異物の混入や汚れが付着されていることで、再生利用できない残渣が相当量発生すること、再利用コストや環境への負荷が低減される効果的なリサイクル方法が確立していないことなどから費用対効果も踏まえ、燃えるごみとして燃やしています。環境局長はできない理由ばかりを挙げました。

有料化に伴う手数料の使い方

再生利用できない量とはどのぐらいなのか、具体的な数字を岡山市として把握しているのでしょうか。

コストの点から言えば、家庭ごみ有料化に伴う手数料は、平成21年度では、約8億6千万円。有料化経費3億6千万円を差し引いても、約5億円の収入があります。このお金は、不法投棄対策や地球温暖化対策などに使われているようですが、ごみ有料化で得た収入は、ごみ減量化にも活用すべきです。岡山市は、容器包装プラスチックのリサイクル方法を確立し、再利用を行うことです。家庭ごみの6割が容器包装だと言われています。岡山市は、ぜひプラスチック容器包装を分別し、ごみ減量化をすべきです。

なんと適当な高谷茂男岡山市長 行革なんて関係ないっ！ FAXニュース (2012.8.10付) 続報

この市長、「適当な人がいなかったのだから副市長を1人にした」と8月24日記者会見でしゃべってしまった。今から振り返ってみれば、2人を1人にすると結果経費削減効果が生まれる。(年間1900万円) 厳しい行財政環境の中で執行体制のスリム化を図る。だから行革の一環で副市長を1人にしますと、本心じゃない話を3月19日、記者会見で言ってしまったということかな。

8月24日臨時市議会に、4月から行革で1人体制の副市長を2人に戻す人事案ができました。「ESD世界会議成功の取り組みなど、トップマネジメント強化が必要」との理由でした。ところがその日午後の記者会見で、高谷市長は、適当な人が見つかったのだから2人に戻したと、議会に提案した理由と違うことを述べ、岡山市は副市長2人までおいていいとされているから2人は当然と居直っています。3月19日の会見では、岡山県でも定数3人のところ1人でやってる話まで紹介し、副市長1人体制でがんばると言っていたこの市長、発言に責任はないのでしょうか。

9月議会でのこの問題の質問に対し、3月の記者会見で「適当な人がいなかった」とは言わなかったのに、答弁では、「当時、適当な人がいなかった状況で1人体制の試行を始めたが、今回トップマネジメント強化が必要となった」と述べた。3月からの発言が紆余曲折していること、気がついているのかな？

下市このみ事務所からのお知らせ

- ▼ ~ 27日 (木) 9月定例岡山市議会開会中
- ▼ 9月18日 (火) まちづくり～おしゃべりネット♪
10:00～ 下市このみ事務所
- ▼ 10月2日 (火) 映画鑑賞会
10:00～ 下市このみ事務所
- ▼ 11月4日 (日) 第27回ひまわりマーケット
10:00～ 岡山市高屋公園
- ▼ 11月23日 (金・勤労感謝の日)
下市このみ後援会 第5回秋の親睦旅行
行き先：奈良東大寺・大仏
参加ご希望の方は下市事務所まで。